



静寂者ジャンヌ

生き延びるための瞑想

山本賢蔵 [著]

なぜ彼女は異端として囚われたのか？



「現代が見失った深い静寂の精神世界を今に蘇らせた山本氏。瞑想の奥深い世界に自己を沈潜させることのできる著者ならではの魂の評伝記録文学だ。」 作家・柳田邦男

ルイ14世の時代を生きた一人の女性の生涯と思想に迫る。彼女は「異端の女性神秘家」として闇に葬り去られてきたが、その生涯は、男性支配の女性嫌悪社会の中で、自己を貫き通した鮮烈な抵抗の連続だった。日本で初となるギュイヨン夫人の本格評伝。



【著者】やまもと・けんぞう氏は1960年生まれ。東京大学法学部卒業。元NHK記者。テヘラン、ブノンペン、パリ特派員を歴任。著作に「きみは金色の雨になる」、「あゝの路」（山本けんぞう・文、いせひでこ・絵）、「右傾化に魅せられた人々―自虐史観からの解放」、「バグダッドのモモ」、「地雷原のボン」（山本けんぞう・文、デュフオ恭子・絵）など。

【目次より】

第一部 静寂者のできるまで

第二章 めざまめ

第三章 〈夜〉

第四章 夜明け

第五章 遍 歴

第二章 脚 光

第二部 抵抗する静寂者

第二章 ヴェルサイユの仲間たち

第三章 シークレット・レターズ

第三章 シークレット・レターズ (続)

第四章 対 決

第五章 シスターフッド

第三部 静寂者は国を超えて

第二章 獄 中

第二章 生き延びる

第三章 多様な場所に

第四章 晩年の日々

◆四六判・512頁・定価3300円

3月25日発売

非戦と抵抗の教育

障害児教育の源流にあるもの

3月24日発売

鈴木文治 [著]

◆四六判・229頁・定価2310円

現代の教育の課題とは何か

日本が富国強兵に邁進し、教育が「お国のためになる」人間の育成に注力していた時代に、子どもの自由と個性を尊重し、愛の教育を志す少数の教師たちがいた。本書は信州教育や自由民権運動、中でもキリスト者の系譜をたどりなます。彼らは障害児教育の先駆けともなり、当時「ごくつぶし」と呼ばれ軽視されていた子どもたちの成長に献身的に取り組んだ。また著者自身の障害児教育の豊富な経験と、路上生活者と共に礼拝する教会牧師の経験に照らしながら、再び戦争前後の様相を呈する日本社会に警鐘を鳴らす。

【著者】すずき・ふみはる氏1948年長野県飯田市生まれ。中央大学法学部法律学科及び立教大学文学部キリスト教学科卒業。川崎市立中学校教諭、神奈川県教育委員会、神奈川県立盲学校長・県立養護学校長、田園調布学園大学教授、日本基督教団桜本教会牧師等を歴任。著書に、『インクルージョンをめざす教育』『排除する学校』『人を分けることの不条理』（以上明石書店）、『ホームレス障害者』『閉め出さない学校』（以上日本評論社）、『インクルーシブ神学への道』（新教出版社）、『障害を抱きしめて』『なぜ悲劇は起こり続けるのか』（ぶねうま舎）、『差別する宗教』（現代書館）などがある。

最近のオンデマンド化

中国の近代化とキリスト教

深澤秀男著（ふかざわ氏は岩手大学名誉教授）

◆A5判・定価5280円

ヒトラー政権の共犯者、犠牲者、反対者

《第三帝国》におけるプロテスタント神学と教会の《内面史》のために

H.E. テート著／宮田光雄・佐藤司郎・山崎和明訳

◆A5判・定価9900円

キリストに従う

ディートリヒ・ボンヘッファー著／森平太訳

◆四六判・定価5280円

松本雅弘 著

自分自身と群れ全体とに気を配りながら

カンバーランド長老教会高座教会の主任牧師として37年間心血を注いで語り続けた説教、および論考を収録。主から託された教会の思いがほとばしるメッセージ集。併せて3本のインタビュを収録し、説教の方法論、説教と牧会との関係、また神学との切り結びについて、著者の率直な意見を引き出す。

四六判・定価2200円

大野顯 一著

丹波市氷上町常楽797-1 成松伝道所

兵庫丹波の伝道所で牧師として働き続けた大野顯二、その妻大野節子の37年間の歩みを、牧師の説教と講演でたどる。地域の中に教会が存在するとは、牧師であるとは、キリスト者であるとはどういうことかを、静かに考えさせる。

四六判・予価2200円

パム・ロイ&モイラ・フンメル 編著 / 赤坂桃子 訳

ロゴセラピーのレッスンス 21の知恵 [仮題]

ヴィクトール・フランクルの文章から21の短い章句を引用し、それに関連する目的、幸福、自由、自己超越、責任、ユーモアといった21のテーマを考察する。ロゴセラピーの考え方を通して自己発見のための手がかりをつかむガイドブック。

B6判・定価1650円

〔12月刊行予定でしたが事情により遅れます〕

〔仮題〕

● 2月に出た本と雑誌

戦後日本とキリスト教

敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで

富坂キリスト教センター編



急激な社会変革にキリスト教界はどう対応したか。占領期の宗教政策、キリスト教ブーム、在日コリアン教会、沖縄の土地闘争、キリスト教女子教育等を切り口に。

◆四六判・定価2200円

平和の福音に生きる教会の宣言

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎〔共著〕

改革派教会が2023年の大会で採択した宣言は、今日と将来の教会がこの世に対して果たすべき責任を、平和をつくるという視点から積極的に展開する。その本文と解説。

◆小B6判・定価990円

福音と世界

◆定価660円

3月号

特集Ⅱキリスト教主義教育、現状と課題、そして意義と可能性

寄稿者：中村信博、山中弘次、洪伊杓、與賀田光嗣、藤守麗、藤原佐和子

時評（加藤喜之）／リレー連載『荊冠の神学』を読む（鳥井新平）／連載 インタビュー 女たちの闘い（金必順さん）、田島卓、今高義也、長尾優、山口陽一、山崎フンサム和彦

福音と世界

2025年
4

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・荒井献とその時代

荒井献の学術研究

——その功績と遺された課題—— 大貫 隆

荒井献における信と知

——弱さを批判の基準に—— 廣石 望

人が神にならないために

——荒井献先生を追慕し—— 上村 静

韓国の民主化闘争時代のキリスト者青年と

荒井献 —— 賈 晶淳

怖気おそに襲おそわれるのはなぜか

——「代弁の時代」を超え—— 渡邊さゆり

荒井献とクエアな時代 —— クエア理論による

新約聖書の読解の道標 —— 小林昭博

【新連載】

ばやき牧師のさすらい説教録 …… 富田正樹

異端者の世界航海 ハンス・キュンクの生涯 …… 福岡 揚

【好評連載】

◆ 女たちの闘い 声をつむぐ、織りなす 11（最終回）

◆ 証言としての旧約聖書 12 …… 田島 卓

◆ 八木重吉の聖書 21 …… 今高義也

◆ 私は告白する、私の神を 25 …… 長尾 優

◆ 「日本的キリスト教」を読む 36 …… 山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 40 …… 山崎ランサム和彦

出版部より― 深井智朗さんの「復帰」について
 深井智朗さんの著書『ヴァイマルの聖なる政治的精神』（2012年）と『図書』2015年8月号に掲載されたエッセイ「エルンスト・トレルチの家計簿」における研究不正行為が明るみに出たのは2018年でした。翌年、東洋英和女学院の調査委員会によって悪質な捏造と盗用があったと認定され、深井さんは同学院の院長を懲戒解雇されました。岩波書店は当該書籍を絶版回収。また中央公論新社は前年に『プロテスタンティズム』に授与した読売・吉野作造賞を、さらに日本ドイツ学会も2009年に授与した学会奨励賞を取り消しました。中央公論新社は『プロテスタンティズム』の出荷も停止しました。深井さんはこれら一連の処分にも異議申し立てをしませんでしたが、さりとて具体的な謝罪を述べたこともありませんでした。

この出来事は人文思想系の学界に大きな衝撃を与え、大学や研究機関で不正防止対策がいっそう厳格化されるきっかけとなりました。出版界においても、不正防止のために自分たちができることは何だろうかと、編集者仲間でも議論したことを覚えています。しかし当時ほとんど予想していなかったのは、深井さんが執筆者として復帰するという事態でした。従って、深井さんが復帰する条件は何かについても考えていませんでした。

昨年、書評誌『本のひろば』11月号に深井さんが西谷幸介著『日本教』の弱点（版元ヨベル）の書評を寄稿しました。さらに今年2月にカルヴァン『キリスト教綱要初版』をご自身の訳で講談社学術文庫から刊行しました。『本のひろば』編集委員会に12月号で、「著述において深刻な不正行為を犯した人を、本人の明確な反省もなしに新たな著述に起用することは、たとえ小さな書評といえども不適切だと考えます」と述べ、書評掲載前に適切な対応をとれなかった編集体制の不備を謝罪する声明を出しました。他方、講談社は研究者から寄せられた公開質問状に互盛央編集長名で回答しました。要点は「すでに社会的制裁を受けている」「本人が後悔、反省している」「一度失敗した人間にもチャンスを与えられる社会であってほしい」という3点です。

深井さんは「綱要」の訳者あとがきで、第五章の「悔悛について」を訳しながら「何度も打ちのめされ、教えられ、しかし深く慰められた」と記しています。その言葉に偽りがないなら、新著を出す前に必ずべきことがあるのではないのでしょうか。前述の不正行為の経緯について、カルヴァンの言葉を借りれば「全世界の耳に聞こえるように」告白すること。また、それ以外の著述についても正直に語る。たとえば小社は深井さんの単著を2冊、訳書を1冊出しています。小社は、それらが岩波や中公新社の本と同じことにならないか、5年間落ち着かない思いでいるのです。（小林）